



私が歯科衛生士として
臨床に出てから
30年が過ぎました。

ここ数年、やっと臨床の現場でも幅広い年齢層の歯科衛生士を見かけるようになってきました。私が新人のころはほとんどが独身女性ばかりで、歯科衛生士の数も少なく、どちらかというとアシスタントメインの仕事をしている人が多い時代でした。歯科医院の求人票に《正社員募集24歳迄独身自宅通勤限》なんてものがあつたころです。どこの歯科医院でも忙しく、悩みながらもとにかく目の前の患者さんを診るので精いっぱいでした。

時は流れ、社会における歯科医療の位置づけはずいぶん変わりました。歯科医療にかかわるすべての職種が、お互いの専門性を活かし、『チーム』としてともに社会に貢献していける素地はすでにできあがっていると考えています。

しかし、実際の臨床で若い先生方にお会いすると、スタッフの仕事をよくわからないままで済ませている方が多いことに驚かされます。「スタッフ=お手伝いさん感覚」のままの先生もいらっしゃいます。

これは、決して先生方が悪いわけではなく、おそらくただ知らないだけなのではないかと考えています。二代目以降の先生方は子どものころに見ていた「歯科医院のスタッフ」の感覚のままで、スタッフに対する考え方が更新されていないのかもしれない。時代がそれだけスピードを上げて流れているともいえるでしょう。

歯科医療は、歯科医師だけでなく、スタッフと患者さんとのチームで作り上げていくものです。そして、チームの要はやはり歯科医師の先生方なのです。先生方が「お手伝いさん感覚」でスタッフを見ていては、彼女たちはそこから先に一歩も進めないでしょう。

この本は、3つの願いをもって書かれています。

- ①若い先生方に、歯科衛生士をはじめとしたスタッフのことをもっと知ってもらいたい
- ②先生方がスタッフに与える影響の大きさをわかってほしい
- ③先生方のさまざまな不安に寄り添いたい

真の意味での【チーム医療】をめざして。時間があるときに好きなページをパラパラとめくってほしいと思います。

